

## 2015年度 中央大学特定課題研究費 — 研究報告書 —

所属	理工学部	身分	教授
氏名	早田 幸政		
NAME	HAYATA Yukimasa		

## 1. 研究課題

（和文）高等教育質保証の国際的通用力を担保するための地域連携策に関する実証的研究—とりわけ ASEAN と EU 圏の取り組みを手掛かりに—

（英文）Study on the Strategy of Collaborative Quality Assurance System for Higher Education toward International Currency—Focus on ASEAN and EU about Quality Assurance System

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

今日、ASEAN 地域では、学生移動の促進を図るため、各国毎に異なる高等教育システムの等価性と透過性に裏付けられた質保証と単位互換に関わる仕組みの調和のとれた標準化が目指されている。こうした有為な取組の状況について、とりわけ、ASEAN における教育質保証を目的とする地域連携システムを、関係する諸機関の訪問調査を通じて確認・検証した。

具体的には、ASEAN 諸国の大学間交流の促進に向けた教育質保証の枠組み作りに向け、同地域で活動を展開している諸機関を訪問調査しその検証を行った。加えて、ASEAN の中核をなすタイの大学評価機関であるタイ国王立教育水準評価局(ONESQA)の現地調査も実施した。この調査研究を通じ、学習アウトカムの測定を大学アクセディテーションの基軸とした ASEAN 諸国の高等教育質保証の枠組み作りの進展状況を把握することができた。

本研究では、上記と併せ、そうした試みを先端的に行ってきた EU 圏の高等教育質保証システムの有効性を見極めるため訪問調査を行った。そこでは、英国・イングランドの高等教育質保証機関である「高等教育質保証機構(QAA)」の制度改革の把握を訪問調査を通して行った。

さらに、本調査研究の過程で、今日の高等教育を取り巻くグローバルな趨勢の中で、我が国高等教育質保証システムにおける学習アウトカムの位置づけの検討も書面調査により行った。

このほか、その評価手法が、米国の高等教育質保証システム、とりわけ専門分野別アクセディテーション・システムの中でどう扱われているか、という点の探査も書面調査を通じて行った。

（英文）

The purpose of this study is to consider accreditation system based on “learning outcome assessment” to facilitate cross-border higher education services. So, first, this study surveyed the collaborative quality assurance system for higher education in ASEAN and EU. Second, this study inquired into the significance of “learning outcome assessment” in American professional accreditation and “internal quality assurance” in Japanese higher education.